

令和7年度山形県歯科医学会

今年度はデジタルデンティストリーに関する基調講演と
発表（裏面）及びディスカッションを開催します。
会員多数の聴講をお待ちしております。

2025/11/9 (日)
9:50～15:00

対象 山形県歯科医師会会員・スタッフ
山形県歯科衛生士会・
山形県歯科技工士会会員等

会場：山形県看護協会会館

山形市松栄1-5-45 アルカディアソフトパーク内

※形歯会館ではございませんのでご注意ください

基調講演

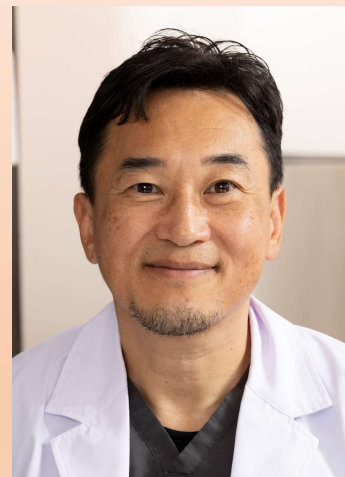
デジタル義歯最前線

講師 やまざき 歯科医院（富山県開業）

院長 山崎 史晃 先生

【抄録】

近年、デジタル技術の進展は著しく、義歯製作においてもその応用が急速に広がっている。従来のアナログ技術に基づく義歯製作は、石膏模型の作製と管理、人工歯配列、重合といった多段階の工程を経るため、完成までに通常6週間程度を要した。また各工程での変形や誤差を完全に排除することは困難であり、適合精度や咬合の安定性、さらには審美性の再現に限界があった。このため「短期間での提供」と「高い品質の維持」はしばしば相反する課題として捉えられてきた。しかしながら、近年のスキャナー、CADソフトウェア、3Dプリンターやミリングマシンといったデジタル技術の統合により、義歯製作のワークフローは従来と大きく異なる姿へと変貌を遂げつつある。データの一元管理により、工程の簡略化と誤差の低減が可能となり、患者にとっては来院回数や待機期間の短縮、術者



略歴

1995 九州歯科大学 卒業
2017 大阪大学大学院修了 博士（歯学）
2024 マラヤ大学 エキスパート マレーシア
2025 金沢医科大学 非常勤講師

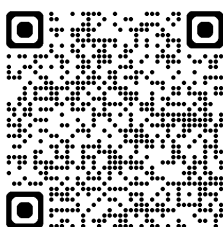
にとっては再現性の高い設計や修正の容易さといった利点が得られる。特に印象採得が困難な高齢者や全身疾患を有する患者に対しては、デジタルアプローチが従来法以上の安全性と快適性をもたらす可能性を秘めている。本講演では「時間も品質も諦めない」という観点から、私が日常臨床で実践しているデジタル義歯製作の取り組みを紹介する。従来法と比較し、治療回数や製作期間をどの程度短縮可能であることを提示するとともに、製作物の適合精度、咬合の安定性、審美的な再現性といった品質に直結する要素について臨床症例を通して検証する。特に、アナログ義歯において避けがたかった「最終重合後の適合不良」や「複数回の咬合調整」といった問題点が、デジタルワークフローの導入により克服可能であることを示す。さらに、デジタル技術の導入に伴う課題についても議論する。たとえば、口腔内スキャナーによる顎堤形態の読み取りには時間を要し、開口制限や強い嚥下反射を有する患者では困難を伴う。また、デジタル設計に適した材料の選択や、3Dプリント義歯の強度・耐久性といった物性的課題も依然として残されている。こうした制約に対し、アナログ技術とのハイブリッド運用や、適応症例の選択といった臨床的工夫を交えて対応している実際を紹介する。義歯製作の本質的目的は、患者の咀嚼機能を回復し、生活の質（QOL）を向上させることである。その意味において、治療期間の短縮と義歯の高品質化を両立させるデジタルアプローチは、臨床家と患者双方の利益を最大化する手段となり得る。本講演を通じて、デジタル義歯の持つ可能性と現実的な限界を共有し、明日からの臨床に応用可能な実践的示唆を提供したい。

申込方法

右記二次元コードまたは山形県歯科医師会HP
より10月31日（金）までお申し込みください。
（昼食の必要な方はお申し込みください。）

詳細はこちら→

一般社団法人山形県歯科医師会
<https://www.keishi.org/>



タイムスケジュール（前後する場合があります）

9:50～10:00	開会・挨拶・講師紹介
10:00～12:00	基調講演
12:00～12:45	休憩
12:45～13:15	発表Ⅰ
13:15～13:45	発表Ⅱ
13:45～14:15	発表Ⅲ
14:15～14:45	発表Ⅳ
14:45～15:00	ディスカッション・閉会



発 表

< 発表Ⅰ > デジタルの導入とメタルフリー修復のポイント



奥山歯科診療所 院長 飯淵義晃

CAD/CAM冠が保険収載されてから11年が経ち、適応範囲は広がっている。しかしながら当初は外れやすいと言われ、懸念している先生も多いと聞く。しかしその理由は歯面処理などのステップ不足とも言われている。

2021年に自院完結型のシステムを導入し、脱離率2%以下の当院が行なっている教科書的なステップを共有させて頂く。

< 発表Ⅱ > 総義歯治療におけるデジタル技術の活用



安達歯科医院 院長 安達隆帆

義歯治療におけるデジタル技術の活用は、クラウン・ブリッジ分野と比較して普及がまだまだ限定的である。当院で実施した3Dプリント義歯やミリング義歯を用いた総義歯治療の実症例を通して、義歯治療におけるデジタル化をイメージして頂くとともに、利点や課題、臨床実感についてお話をさせて頂く。

< 発表Ⅲ > インハウスデジタルワークフローを活用したインプラント治療 ー当院における取り組みー



大泉歯科クリニック 院長 大泉博史

当院ではインハウスデジタルワークフローを取り入れ、インプラント治療における検査・診断から外科手術、補綴修復までを院内で一貫して行う体制を模索してきた。サージカルガイドや補綴構造の院内製作により、工程の効率化や納期短縮、コスト削減の可能性が示唆された。また、デジタルデータの活用により補綴トラブルへの対応も容易となった。これらの取り組みを通じ、臨床における有用性について症例を交えて報告する。

< 発表Ⅳ > 山形大学医学部附属病院歯科口腔外科における顎矯正手術への取り組み ーデジタル化に向けた現状と展望ー



山形大学医学部附属病院 歯科口腔外科 助教 笹原庸由

顎矯正手術は口腔外科領域におけるmajor surgeryの一つであり、本邦では術式や安全性の向上に伴い施行件数が増加している。より高い精度が求められる中、当科では術前計画にデジタル技術を導入し、特に上顎歯列正中およびocclusal cant（咬合平面傾斜）の補正においてその有用性を実感している。本発表では当科における顎矯正手術の現状と、現在進めている研究を含めた今後の展望について紹介する。